日刊 動労千葉

86. 10. 7

No. 2373

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

国鉄法案粉砕、分割・民営化絶対反対

10.12 国鉄労働者総決起集会－国会デモへ

対当局訴訟の取り下げ－「労使共同宣言」の降伏路線をうちくだき 実力反撃－ストライキで勝利の血路ひらこう

国労中央は、九月三十日の中闘委において、採決で「共同宣言」路線方針を承認したという。国労民同は、闘う国労組合員が健在であることをさし示し、総反撃の第一歩としてかちとられた九・二四の偉大な決起を踏みつぶそうとしている。自らが延命せんと労働者のクビをさしだす民同の裏切りを許すな。国鉄法案粉砕、十月九～十日「国労臨時全国大会」の勝利をかちとり、ストライキの旗をかかげて一〇・一二清水谷公園に総結集し断固たる国会デモをかちとろう。

当局の奴隷＝革マル松崎の尻尾を追うのか！

社会党・総評に「労使共同宣言」をおしつけられた国労中央は、分割・民営化反対の旗をおろせば「雇用と組織が守れる」という大ペテンをもって国労組合員に総屈服をせまってきている。

いままで国労中央にいったい何が問われてきたのか。分割・民営化に絶対反対して闘うか、屈服して労使共同宣言の道に走るか、このどちらかの道を選ぶのかが問われてきた。

しかし、国労中央は、動労革マルの道を歩もうとしている。分割・民営化に屈服し、労働者に奴隷の道を強要しようとすることは動労革マルそのものだ。

苦難の中で不屈に闘う組合員を売りとばして延命をはかる国労民同

中曽根・杉浦の手先、動労革マルは「国労をたたきつぶし、国労の首を切って自分たちだけ助かる」の反動路線をかかげ、国労解体に血道をあげている。「倒産会社＝国労に居てなんになる」「暗い日々と国（黒）労にさようなら」（動労）「国労はまもなく旧国労＝争議（葬儀）組合になる」（真国労）とまでいいなしている連中に、いま国労中央は追従し、当局に許しを乞い国労民同のみの延命をはかろうとしている。どうして、こんなうす汚い裏切りを許せようか。

七〇数名の仲間の無念の「死」に闘いをもってこたえるときだ
高野君の無念をはらせ！
―水戸の仲間が決起―

九月二八日、水戸の国鉄労働者が「分割・民営化」を徹底糾弾する遺書を残して若い命を自ら絶った。翌二九日には、仙台で若い仲間が命を絶った。ところが国労中央は「だから早く労使共同宣言を結ばねばならない」と逆転させて居直っている。　中曽根・杉浦は「分割・民営化」―十万人首切りを成し遂げるには国労解体しかないとし、動労革マル・真国労・鉄労は自分たちだけ延命せんがために、国労解体を叫んでいる。だとしたら、国労は組織を守るためには、「分割・民営化」阻止、「人活センター」粉砕へ断固起つことは自明の理ではないか。水戸の国鉄労働者は高野君追悼・抗議し水戸駅前でハンガーストライキに突入した。理不尽な攻撃を許し、高野君を追い込んだ屈服路線を断固糾弾し、「労使共同宣言」策動を粉砕しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！

国鉄法案粉砕、分割・民営化絶対反対

10・12国鉄労働者総決起集会

▼とき　10月12日(日)正午　集会・国会デモ
▼ところ　東京・清水谷公園（国電四ツ谷駅、地下鉄赤坂見付駅下車）
▼主催　国鉄労働者全国交流会議
　　国鉄千葉動力車労働組合